

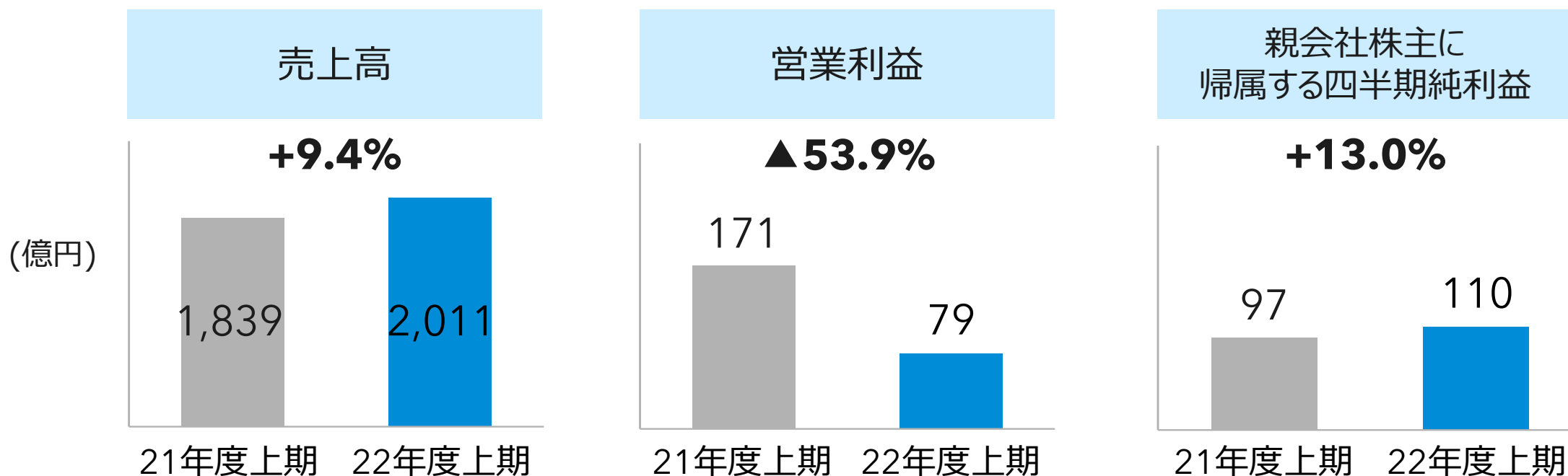
2022.11.10

# 2022年度 第2四半期 決算説明

東洋紡株式会社

## 2Q累計実績

PCR検査需要増加に応えるも、原燃料価格の高騰、工業用フィルムの市況悪化により、増収減益。  
四半期純利益は、特益により前期比増益の110億円



## 2023年3月期通期予想

さらなる価格転嫁を進めるが、原燃料価格の高止まり、自動車生産の回復遅れ、家電・スマホの在庫調整の影響を踏まえ、営業利益を170億円に修正。当期利益は120億円を予想 [2](#)

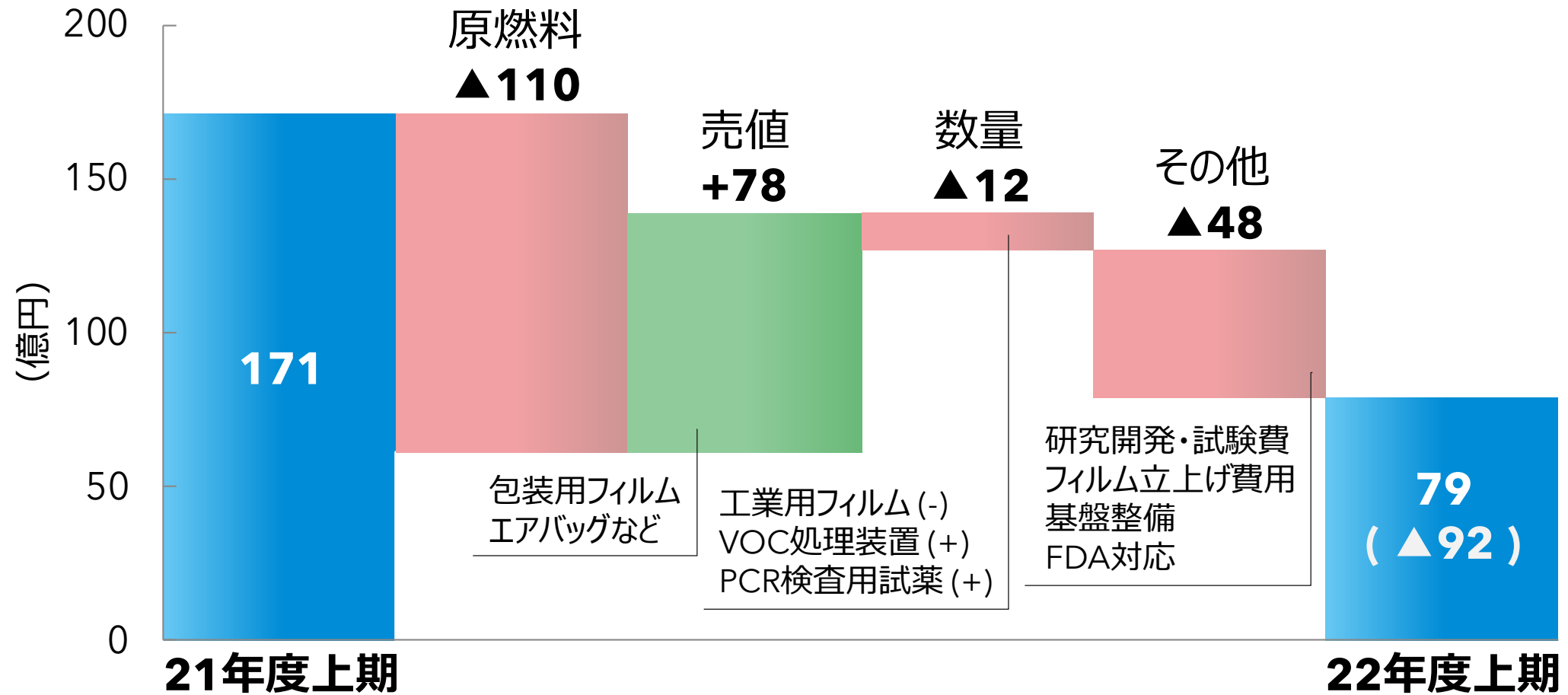
# 決算サマリー | PL

**TOYOBO**

(億円)

	21年度		22年度	増減	
	上期	下期	上期	金額	率
売上高	1,839	1,919	<b>2,011</b>	+173	+9.4%
営業利益	171	113	<b>79</b>	▲ 92	▲ 53.9%
(率)	9.3%	5.9%	<b>3.9%</b>	-	-
経常利益	133	98	<b>68</b>	▲ 65	▲ 49.2%
特別損益	▲ 18	▲ 65	<b>81</b>	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	97	32	<b>110</b>	+13	+13.0%
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	271	214	<b>175</b>	▲ 96	▲ 35.5%
EPS (円)	109.2	35.6	<b>123.4</b>	-	-
ROE* <small>* 22年度上期は年換算ベース。 (四半期純利益×2)÷期首・期末平均自己資本</small>	6.8%		<b>11.0%</b>	-	-
営業CF	118	53	<b>122</b>	+4	-
減価償却費	100	101	<b>96</b>	▲ 4	▲ 4.0%
設備投資	138	198	<b>175</b>	+37	+26.5%

# 営業利益の増減要因



	21年度 上期	22年度 上期
為替レート (円/US\$)	110	134
国産ナフサ (千円/kl)	51	83

2022年度 第1四半期 決算説明資料において、「数量 ▲20」、「その他 ▲6」としておりましたが、「数量 ▲9」、「その他 ▲17」に修正いたします。

		(B)	(A)	(億円)
	21/3末	22/3末	22/9末	増減(A)-(B)
総資産	4,912	5,178	<b>5,412</b>	+234
現預金	347	272	<b>289</b>	+17
棚卸資産	763	960	<b>1,145</b>	+184
有形固定資産	2,246	2,276	<b>2,363</b>	+87
純資産	1,886	1,971	<b>2,070</b>	+98
自己資本	1,857	1,949	<b>2,046</b>	+97
うち利益剰余金	644	747	<b>821</b>	+74
非支配株主持分	29	23	<b>24</b>	+1
有利子負債	1,870	1,912	<b>2,022</b>	+110
D/E レシオ	1.01	0.98	<b>0.99</b>	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.3	3.4	<b>5.0</b>	-

\* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

(億円)

	売上高		営業利益		
	21年度 上期	22年度 上期	21年度 上期	22年度 上期	増減
フィルム・機能マテリアル	859	<b>867</b>	122	<b>42</b>	▲ 80
モビリティ	216	<b>241</b>	▲ 9	<b>▲ 20</b>	▲ 12
生活・環境	547	<b>646</b>	19	<b>12</b>	▲ 7
ライフサイエンス	163	<b>193</b>	46	<b>54</b>	+8
不動産・その他	53	<b>64</b>	11	<b>10</b>	▲ 1
消去・全社	-	-	▲ 18	<b>▲ 19</b>	▲ 1
合計	1,839	<b>2,011</b>	171	<b>79</b>	▲ 92

(億円)

	21年度			22年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	457	402	859	453	414	867	+8	+0.9%
営業利益	68	54	122	35	7	42	▲ 80	▲ 65.4%
(率)	14.9%	13.5%	14.2%	7.8%	1.7%	4.9%	-	-

## 包装用フィルム

- 販売は堅調も、原燃料価格高騰に対し、製品価格の改定が追いつかず

## 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルム、セラミックコンデンサ用離型フィルムが、一時的な市況悪化の影響を受ける

## 機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、中国のゼロコロナ政策（ロックダウン）の影響を受ける

(億円)

	21年度			22年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	111	105	216	118	123	241	+26	+12.0%
営業利益	▲ 5	▲ 4	▲ 9	▲ 8	▲ 13	▲ 20	▲ 12	-
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-

## エンジニアリングプラスチック

- 国内・海外ともに、原燃料価格高騰に対し、価格改定が追いつかず

## エアバッグ用基布

- 円安および原料価格高騰による原糸購入価格の上昇により、スプレッド悪化



(億円)

	21年度			22年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	277	270	547	321	325	646	+99	+18.1%
営業利益	15	4	19	3	9	12	▲7	▲35.1%
(率)	5.4%	1.4%	3.4%	0.9%	2.9%	1.9%	-	-

## 環境ソリューション

- 世界的なEV化に伴うリチウムイオン電池（LIB）の需要拡大を受けて、LIBセパレータ工場向けの VOC処理装置、交換エレメントの販売が堅調

## 不織布マテリアル

- 原燃料価格高騰に対する価格改定が追いつかず
- 長繊維不織布スパンボンド、機能フィルターは、自動車減産の影響を受ける

## 高機能ファイバー

- “ザイロン”は、自転車タイヤ用途、建築補強材用途の販売が堅調

(億円)

	21年度			22年度			増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	75	89	163	87	106	193	+30	+18.1%
営業利益	19	28	46	21	33	54	+8	+17.3%
(率)	24.9%	31.1%	28.2%	24.6%	30.9%	28.0%	-	-

## バイオ

- 当第2四半期の新型コロナの感染再拡大を受け、PCR検査用原料や試薬が販売を伸ばす
- 診断薬用原料酵素、遺伝子検査用試薬の原料酵素は、欧米向けの販売が拡大

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜、ウイルス除去膜の販売は堅調も、原燃料価格高騰の影響を受ける

## 医薬

- 医薬品製造受託は、FDAからの Warning Letter の解除に向けて対応中

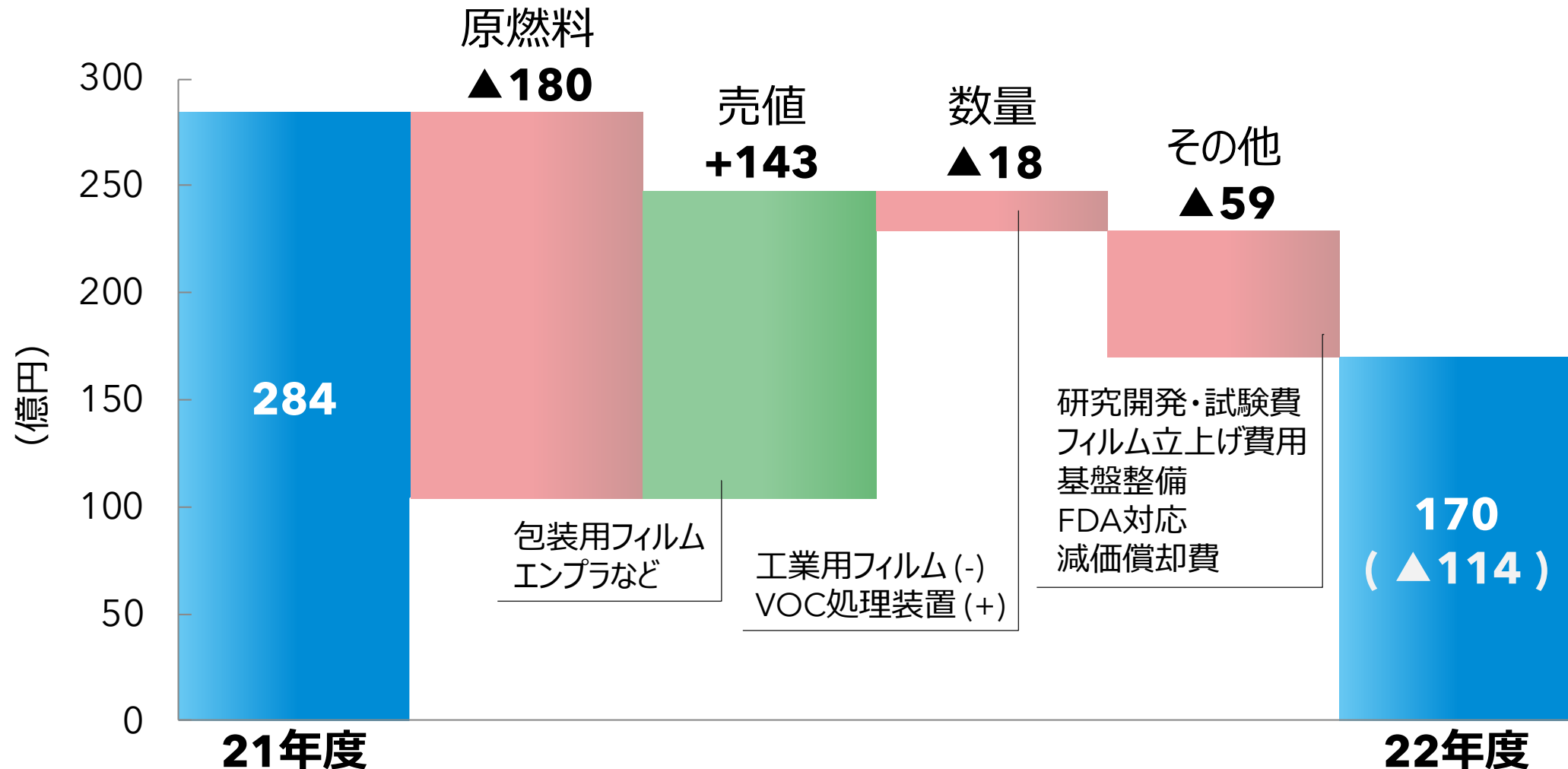
# 2022年度 業績見通し

**TOYOTO**

さらなる価格転嫁を進めるが、原燃料価格の高止まり、自動車生産の回復遅れ、家電・スマホの在庫調整の影響を踏まえ、営業利益を170億円に修正。当期利益は120億円を予想  
(億円)

	21年度	22年度			増減		直近予想 (22/08)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率	
売上高	3,757	2,011	2,089	<b>4,100</b>	+343	+9.1%	4,100
営業利益	284	79	91	<b>170</b>	▲114	▲40.2%	240
(率)	7.6%	3.9%	4.4%	<b>4.1%</b>	-	-	5.9%
経常利益	231	68	72	<b>140</b>	▲91	▲39.4%	180
特別損益	▲83	81	▲53	<b>28</b>	-	-	6
親会社株主に帰属する当期純利益	129	110	10	<b>120</b>	▲9	▲6.7%	130
EBITDA	485	175	200	<b>375</b>	▲110	▲22.7%	450
EPS (円)	144.8	123.4	11.6	<b>134.9</b>	-	-	146.3
減価償却費	201	96	109	<b>205</b>	+4	+2.1%	210
設備投資	336	175	205	<b>380</b>	+44	+13.0%	380

# 営業利益の増減要因



	21年度	22年度	直近予想 (22/8)
為替レート (円/US\$)	112	140	132
国産ナフサ (千円/kl)	57	78	78

# セグメント別見通し

**TOYOBO**

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (22/8)
	21年度 実績	22年度 見通し	21年度 実績	22年度 見通し	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,703	<b>1,780</b>	199	<b>100</b>	▲99	185
モビリティ	447	<b>530</b>	▲18	<b>▲34</b>	▲16	▲23
生活・環境	1,143	<b>1,300</b>	35	<b>33</b>	▲2	30
ライフサイエンス	350	<b>380</b>	87	<b>90</b>	+3	67
不動産・その他	114	<b>110</b>	22	<b>21</b>	▲1	21
消去・全社	-	-	▲40	<b>▲40</b>	+0	▲40
合計	3,757	<b>4,100</b>	284	<b>170</b>	▲114	240

補足

# セグメント別情報

TOYOBBO

(億円)

売上高	21年度					22年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム・機能マテリアル	457	402	414	430	1,703	453	414
モビリティ	111	105	106	126	447	118	123
生活・環境	277	270	277	319	1,143	321	325
ライフサイエンス	75	89	82	104	350	87	106
不動産・その他	26	27	28	33	114	31	33
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	946	892	907	1,012	3,757	1,010	1,001

営業利益	21年度					22年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム・機能マテリアル	68	54	43	33	199	35	7
モビリティ	▲ 5	▲ 4	▲ 6	▲ 3	▲ 18	▲ 8	▲ 13
生活・環境	15	4	8	8	35	3	9
ライフサイエンス	19	28	18	23	87	21	33
不動産・その他	4	7	5	6	22	3	6
消去・全社	▲ 8	▲ 10	▲ 11	▲ 11	▲ 40	▲ 9	▲ 11
合計	92	79	58	55	284	46	33

## セラミックコンデンサ用離型フィルムの加工設備増設

- セラミックコンデンサ市場：年率 7 %以上の成長
- 原反の製膜から離型層のコーティング加工まで一貫製造できる国内唯一のメーカー
- シェア：約 25 %（当社推定） グローバルでトップシェア
- コーティング加工設備：1号機 2020年6月～

**2号機 2022年10月より量産開始 生産能力 約2倍に**

- **使用済みの離型フィルムを原料として再利用する取組みを加速**



つるがフィルム工場コーター棟

## 超高剛性ポリプロピレンフィルム

“パイレン EXTOP”

- 一般的な二軸延伸ポリプロピレンフィルムに対し約 1.7倍の剛性。20%の薄肉化が可能。**減容化でゴミ減少**
- 高耐熱タイプは、加熱処理用途に使用でき、**モノマテリアル化**が可能
- “エコシールド”に使用することで、**耐熱性とバリア性を両立**
- **2022年秋より販売開始**



## 全自動遺伝子解析装置“GENECUBE”専用試薬

- ・多項目 同時測定可能 (最大 4項目× 6検体)

新型コロナウイルスとインフルエンザウイルス  
百日咳と肺炎マイコプラズマ

百日咳とパラ百日咳 (2022年6月 保険適用)

新型コロナウイルスとRSウイルス (2022年8月～ 販売)



“GENECUBE” (モデルC)



診断薬

- ・ 遺伝子検査体制の充実支援、感染症の感染拡大防止、医療従事者の負担軽減に貢献

## コラーゲン使用人工骨“ボナーク”

- ・ リン酸オクタカルシウム (OCP) とコラーゲンからなる複合体
- ・ 上下顎骨の骨欠損部の再生

インプラント植立の前提となる骨再生  
顎裂・嚢胞腔における骨再生の治療

- ・ 国内医療機関等での口腔領域
- ・ **2022年6月より出荷開始**



左：ロッド (1個入り)  
直径 9.0mm、厚さ 10.0mm



右：ディスク (10枚入り)  
直径 9.0mm、厚さ 1.5mm

## 東洋紡グループ統合報告書「TOYOBO REPORT 2022」を公開

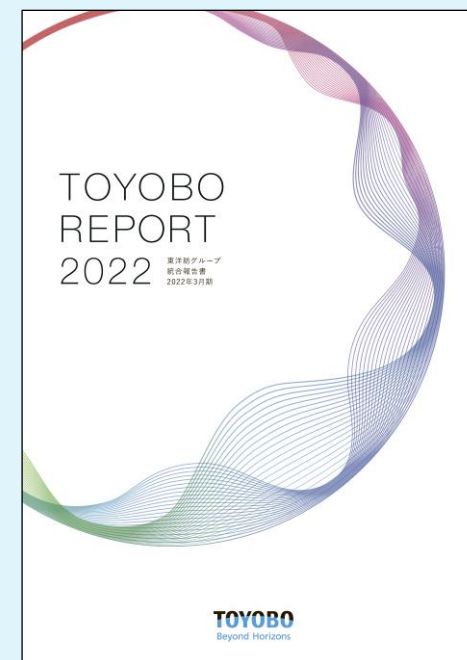
### 主な内容

- 長期ビジョン「サステナブル・ビジョン2030」、「2025中期経営計画（2022～2025年度）」
- 三菱商事との合併会社設立についてのトップ対談、ESG投資家との対談
- 従業員座談会、社外取締役座談会
- TCFDに基づく開示 など

### ダウンロードURL

日本語版：<https://ir.toyobo.co.jp/ja/ir/library/integrated.html>

英語版：<https://ir.toyobo.co.jp/en/ir/library/integrated.html>



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

**TOYOBO**  
Beyond Horizons